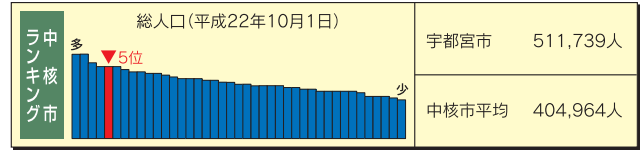
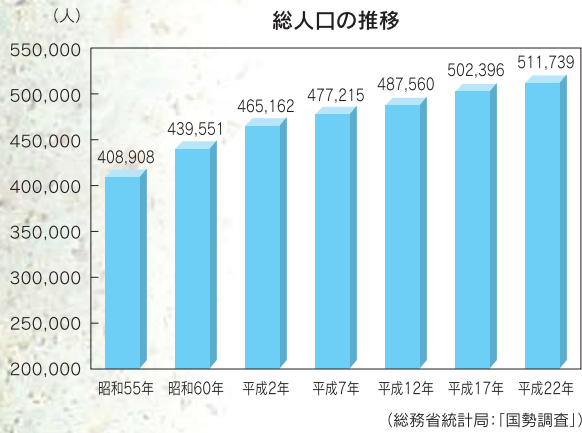


## 総人口

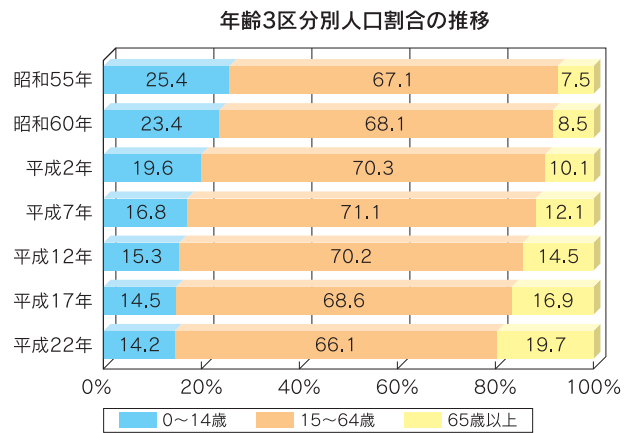


(総務省統計局:「平成22年国勢調査」)

人口増加が続く一方で  
少子高齢化が進む

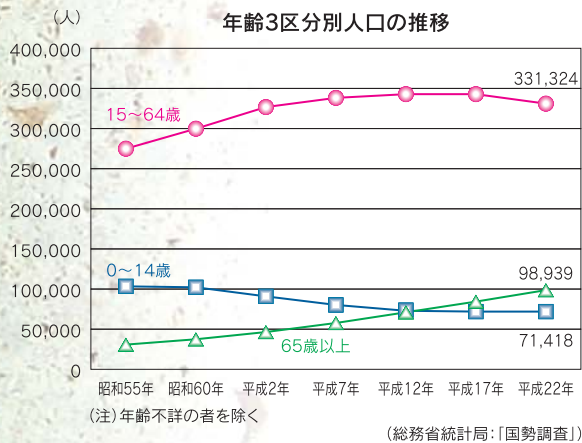


(総務省統計局:「国勢調査」)



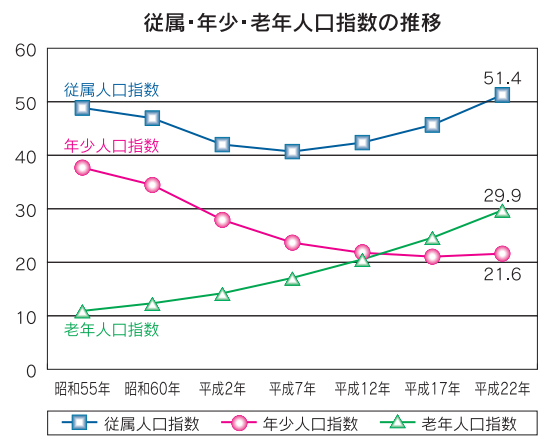
(注)年齢不詳の者を除く

(総務省統計局:「国勢調査」)



(注)年齢不詳の者を除く

(総務省統計局:「国勢調査」)



(総務省統計局:「国勢調査」)

(用語)

従属人口指数 = (年少人口 + 老年人口) / 生産年齢人口 (15~64歳) × 100

年少人口指数 = 年少人口 / 生産年齢人口 (15~64歳) × 100

老年人口指数 = 老年人口 / 生産年齢人口 (15~64歳) × 100

宇都宮市の人口は、511,739人で、平成17年国勢調査から9,343人増加しました。

人口を年齢3区分別にみると、65歳以上の老年人口が98,939人で総人口の約20%に達する一方で、14歳以下の年少人口が昭和55年国勢調査以降、最少となり、少子高齢化が進んでいます。

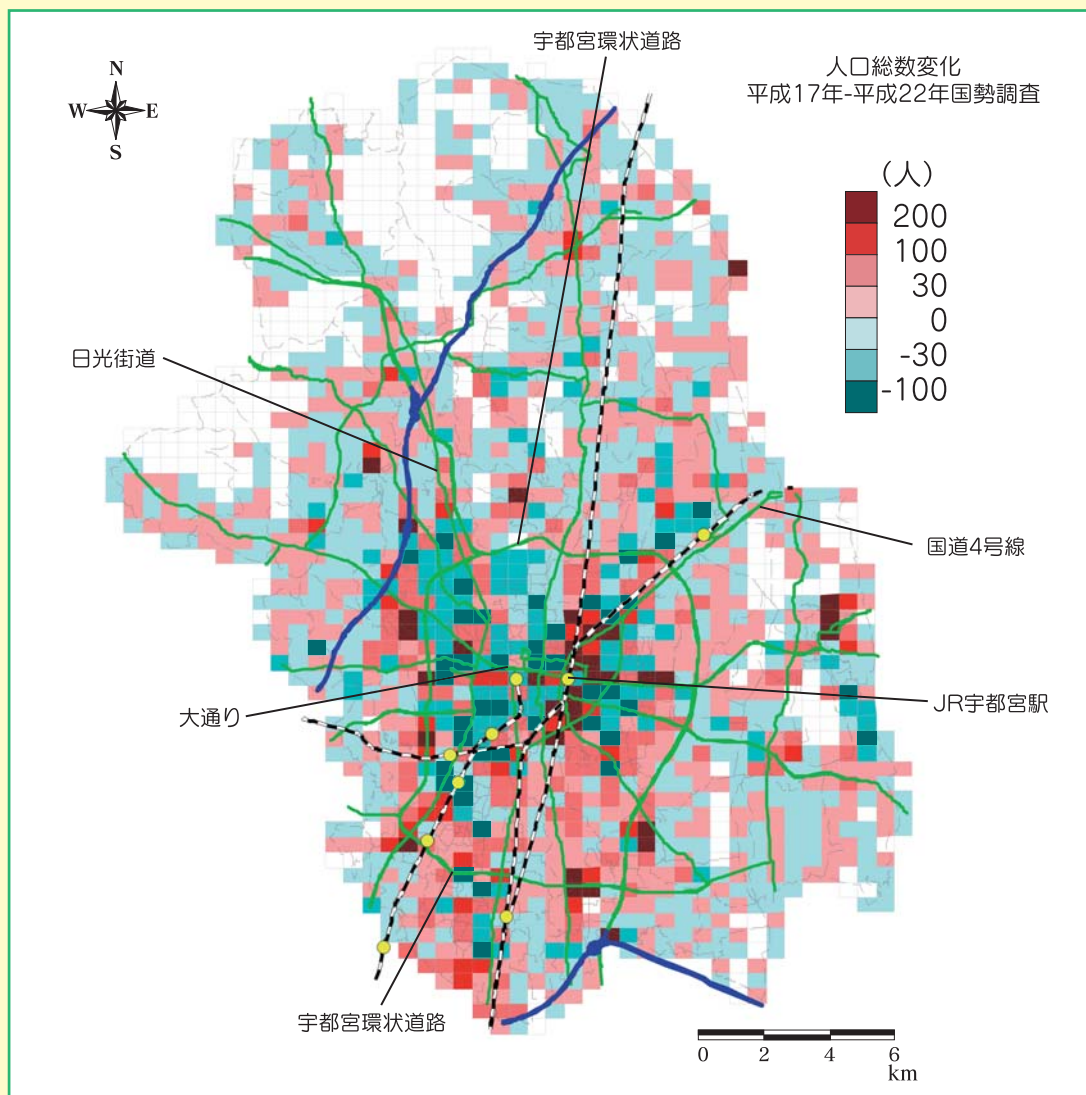
また、働き手100人が年少者と高齢者を何人支えているかを示す従属人口指数((年少人口 + 老年人口) ÷ 生産年齢人口 × 100)の増加が続いています。

更に、年少人口指数が老年人口指数を下回っており、生産年齢人口の扶養負担が増加するものと予想されます。

## 国勢調査地域メッシュ

地域メッシュ統計は、結果数値の表章単位となる地域区画が固定・標準化されているため、町丁目面積の相違にとらわれることなく、地域間比較や時系列比較など異なる統計調査の結果を同一の条件で分析できるという特長があります。

国勢調査の結果について、平成17～22年の5年間の宇都宮市の人口総数変化をみると、中心市街地では、大通りの南とJR宇都宮駅東周辺、郊外では、国道4号線、宇都宮環状道路、日光街道など幹線道路沿いや新興住宅地に人口増がみられる一方、その他の中心市街地の人口が特に減少していることがわかります。



(宇都宮市政策審議室)

## 自然動態

### 出生数が減少し、死亡数が増加

宇都宮市の自然動態は、平成20年からの5年間で24,941人が生まれ、20,402人が亡くなっており、差し引いた自然増加数は4,539人です。

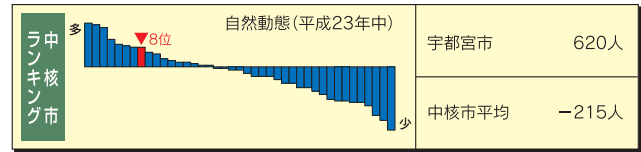
年平均では、出生数4,988人、死亡数4,080人で、差し引き908人の増加となっていますが、平成22年以降、出生数が3年続けて5,000人を下回り、死亡数は4,000人を上回っています。

宇都宮市の合計特殊出生率の推移をみると、平成19年から2年連続で上昇し、平成21年に1.52になりましたが、平成22年、平成23年と2年連続で低下しました。

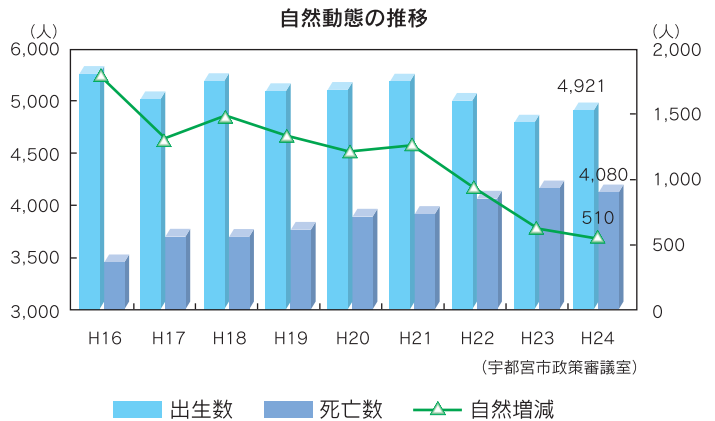


宇都宮市の主要死因別死亡数の推移をみると、悪性新生物(がん)による死亡数が最も多く、次いで心疾患、肺炎、脳血管疾患の順になっています。

また、心疾患、脳血管疾患の死亡数が横ばいで推移する一方、肺炎での死亡者が増加傾向にあります。

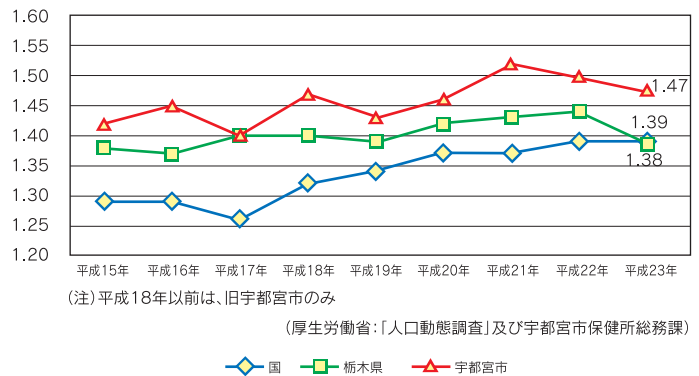


(中核市市長会:「都市要覧2011」)



(宇都宮市政策審議室)

### 合計特殊出生率の推移

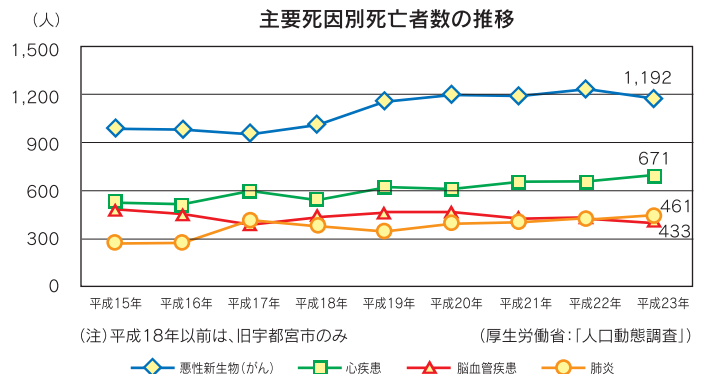


(注)平成18年以前は、旧宇都宮市のみ

(厚生労働省:「人口動態調査」及び宇都宮市保健所総務課)

◆ 国 □ 栃木県 ▲ 宇都宮市

### 主要死因別死亡者数の推移

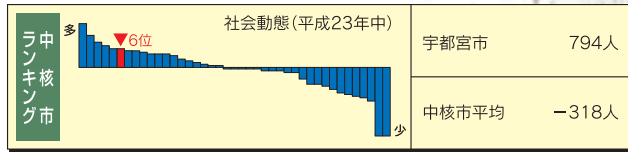


(注)平成18年以前は、旧宇都宮市のみ

(厚生労働省:「人口動態調査」)

◆ 悪性新生物(がん) □ 心疾患 ▲ 脳血管疾患 ○ 肺炎

## 社会動態

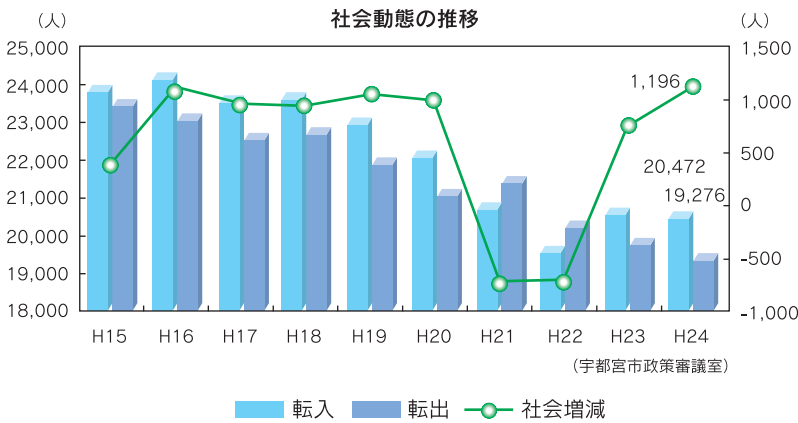


(中核市市長会:「都市要覧2011」)

### 県内市町や福島県からの転入が多い

宇都宮市の社会動態は、平成20年から5年間で103,135人が転入し、101,488人が転出しており、1,647人の転入超過となっています。

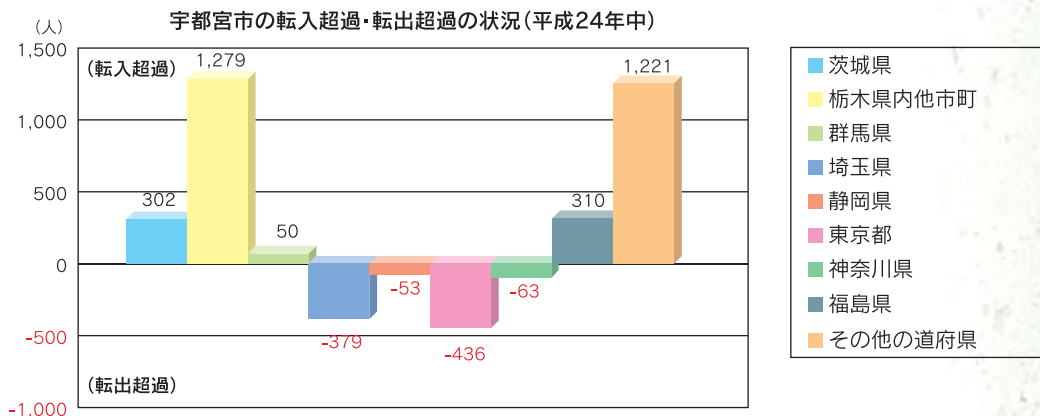
年平均では、転入20,627人、転出20,297人と330人の転入超過となっています。



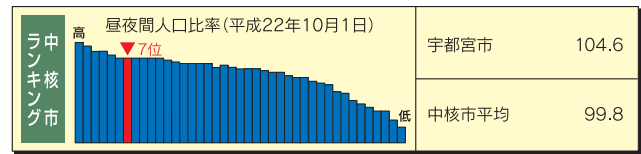
宇都宮市の社会増減の状況を見てみると、平成24年は、転入が20,472人で転出が19,276人と1,196人の社会増となっています。

このうち、栃木県内各市町から1,279人、次いでその他の道府県から1,221人、福島県から310人、茨城県から302人の転入超過となっています。

また、東京都へ436人、埼玉県へ379人、神奈川県へ63人、静岡県へ53人の転出超過となっています。



## 昼間人口



(総務省統計局:「平成22年国勢調査」)

### 昼夜間人口比率 高水準だが低下が続く

宇都宮市の昼間人口(注1)は増加が続いており、平成22年国勢調査では、535,317人になりましたが、昼夜間人口比率(注2)は、平成7年をピークに低下しています。

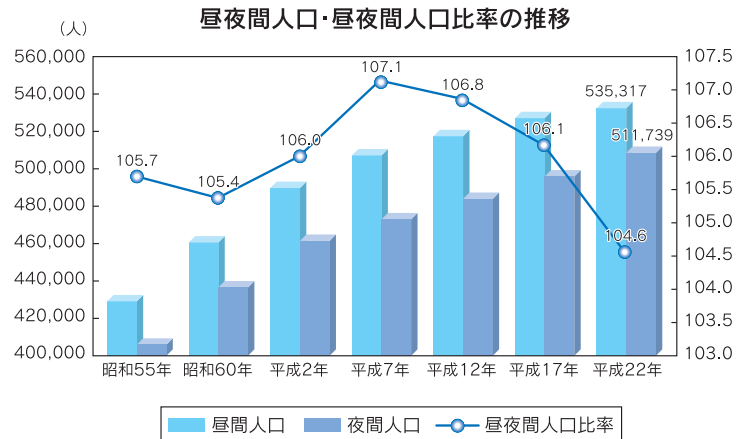
これは、流出人口の増加が影響していると考えられます。

さらに細かく平成22年の宇都宮市の流入出状況を見ても、流出超過は、芳賀町(6,793人)、東京都(2,843人)となっています。

流入超過は、日光市、さくら市、鹿沼市、高根沢町、真岡市と続いています。

県外では、茨城県が流入超過となっています。

(注1) 昼間人口:夜間人口+流入人口-流出人口  
(注2) 昼夜間人口:昼間人口÷夜間人口×100



年次	昼間人口	夜間人口 (※1)	流入流出状況			昼夜間人口 比率
			流入超過	流入人口 (※2)	流出人口 (※3)	
昭和55年	431,965	408,597	23,368	44,390	21,022	105.7
昭和60年	463,358	439,539	23,819	51,207	27,388	105.4
平成2年	492,400	464,335	28,065	64,409	36,344	106.0
平成7年	510,092	476,120	33,972	75,669	41,697	107.1
平成12年	520,239	487,164	33,075	78,447	45,372	106.8
平成17年	529,962	499,367	30,595	80,840	50,245	106.1
平成22年	535,317	511,739	16,386	75,561	59,175	104.6

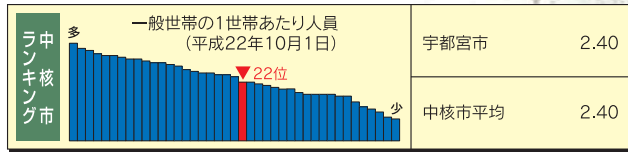
※1 平成17年までは夜間人口に年齢不詳を含んでいない。(総務省統計局:「国勢調査」)  
※2、3 15歳未満を含む。

市町村・県名	宇都宮市への流入			宇都宮市から流出			流入超過
	総数	就業者	通学者	総数	就業者	通学者	
総数(注)	75,046	63,888	11,158	58,705	53,963	4,742	16,341
県内	67,793	57,729	10,064	44,249	41,671	2,578	23,544
栃木市	3,604	3,113	491	1,700	1,434	266	1,904
鹿沼市	9,084	7,901	1,183	6,628	6,337	291	2,456
日光市	5,579	4,674	905	2,489	2,447	42	3,090
真岡市	5,356	4,627	729	3,229	3,046	183	2,127
さくら市	4,707	4,142	565	2,081	1,968	113	2,626
那須烏山市	2,318	1,986	332	455	454	1	1,863
下野市	4,716	3,919	797	2,647	2,411	236	2,069
芳賀町	2,737	2,495	242	9,530	9,529	1	-6,793
壬生町	4,105	3,647	458	2,270	2,079	191	1,835
高根沢町	5,016	4,447	569	2,695	2,592	103	2,321
その他の市町	20,571	16,778	3,793	10,525	9,374	1,151	10,046
県外	7,253	6,159	1,094	7,607	5,904	1,703	-354
茨城県	2,397	1,869	528	790	767	23	1,607
東京都	882	832	50	3,725	2,834	891	-2,843
その他の道府県	3,974	3,458	516	3,092	2,303	789	882

(注)就業地・通学地の市区町村名不詳を含む。

(総務省統計局:「平成22年国勢調査」)

## 世帯数

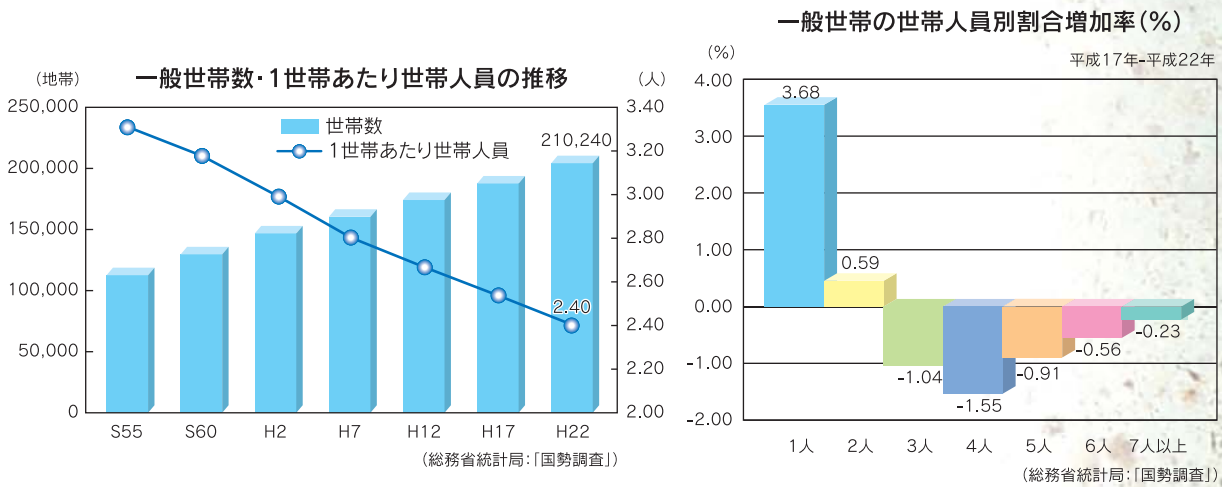


(総務省統計局:「平成22年国勢調査」)

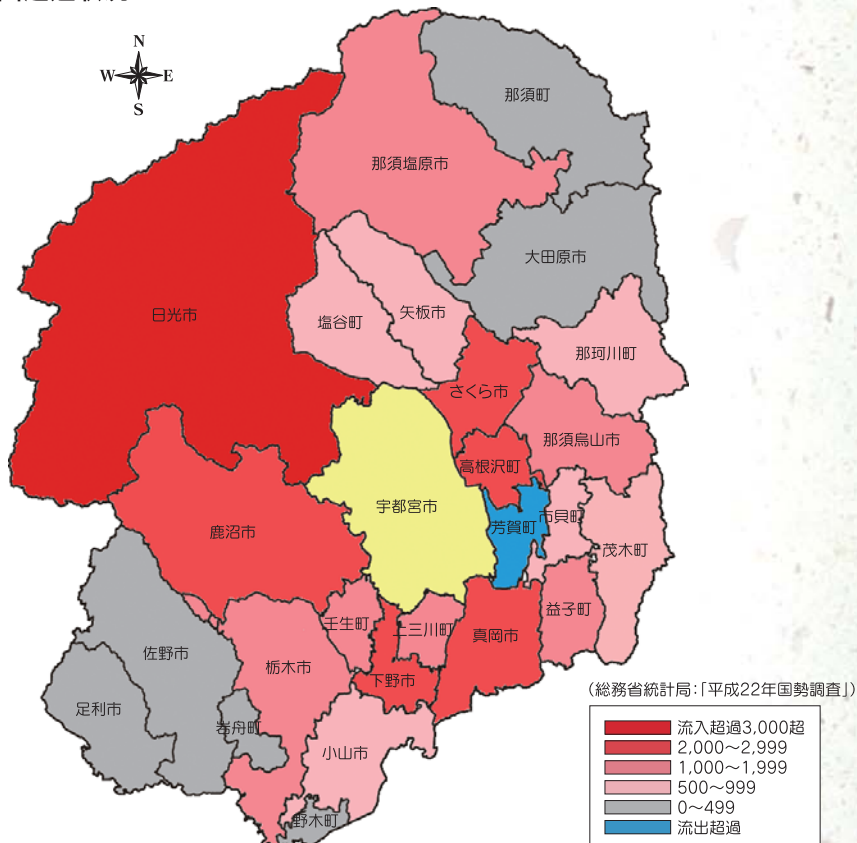
### 1~2人世帯増加 3人以上世帯は減少

世帯数も増加が続いており、平成22年は210,482世帯(うち、一般世帯は210,240世帯)となりました。しかし、一般世帯の1世帯あたり世帯人員は2.40と減少が続いています。

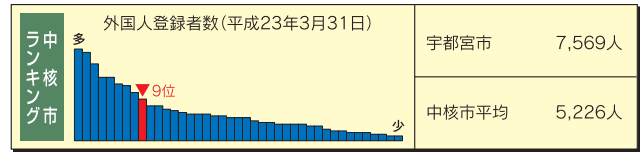
平成17年国勢調査からみた一般世帯の世帯人員別割合増加率をみると、1~2人世帯は増加していますが、3人以上世帯は減少しています。



### 宇都宮市への流入・流出超過状況



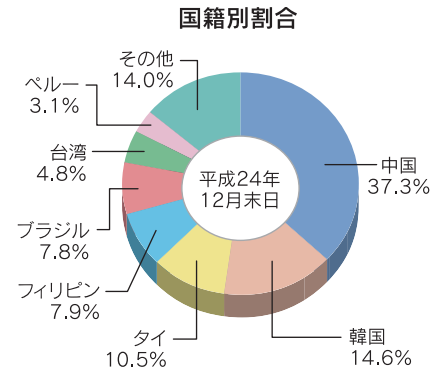
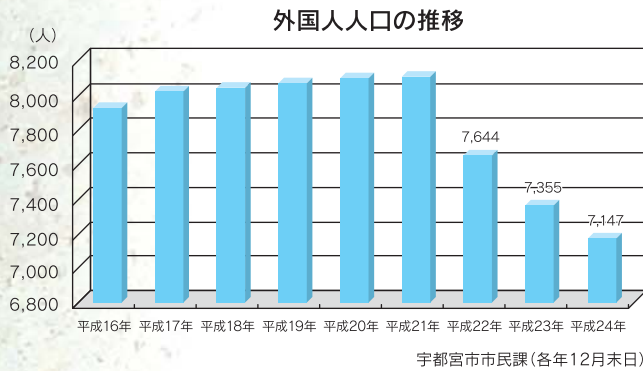
## 外国人人口



(中核市市長会:「都市要覧2011」)

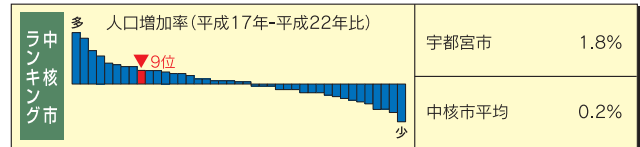
### 増加から減少に転じる 中国、韓国で全体の5割を超える

宇都宮市の外国人の人口は、増加から減少に転じ、平成24年12月末日現在で7,147人となっています。国籍別では、中国が37.3%と一番多く、次いで韓国、タイと続いています。



注)平成24年7月9日に入国管理法や住民基本台帳法などが改正され、外国人も住民基本台帳人口に含まれるようになりました。平成23年以前のデータは、同法律が改正される以前の外国人登録台帳登録者数を掲載しています。

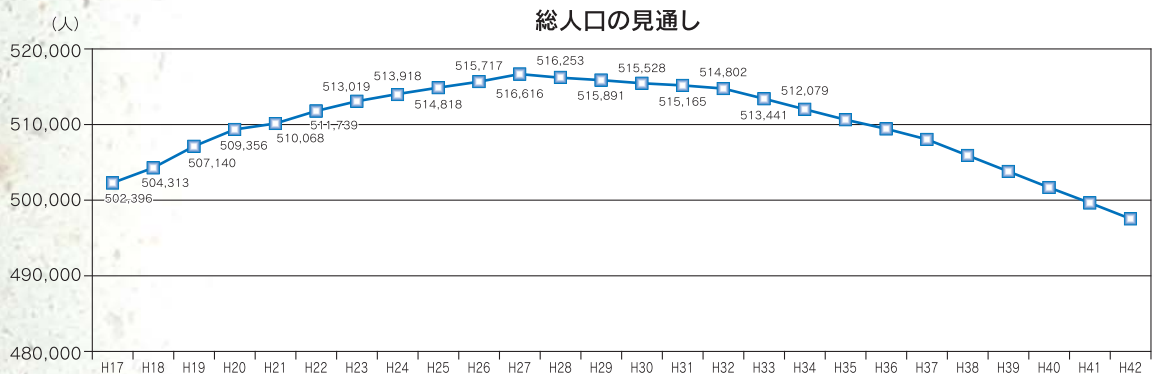
## 人口見通し



(総務省統計局:「平成17年及び平成22年国勢調査」)

### 平成27年 人口ピーク 約51万6千人

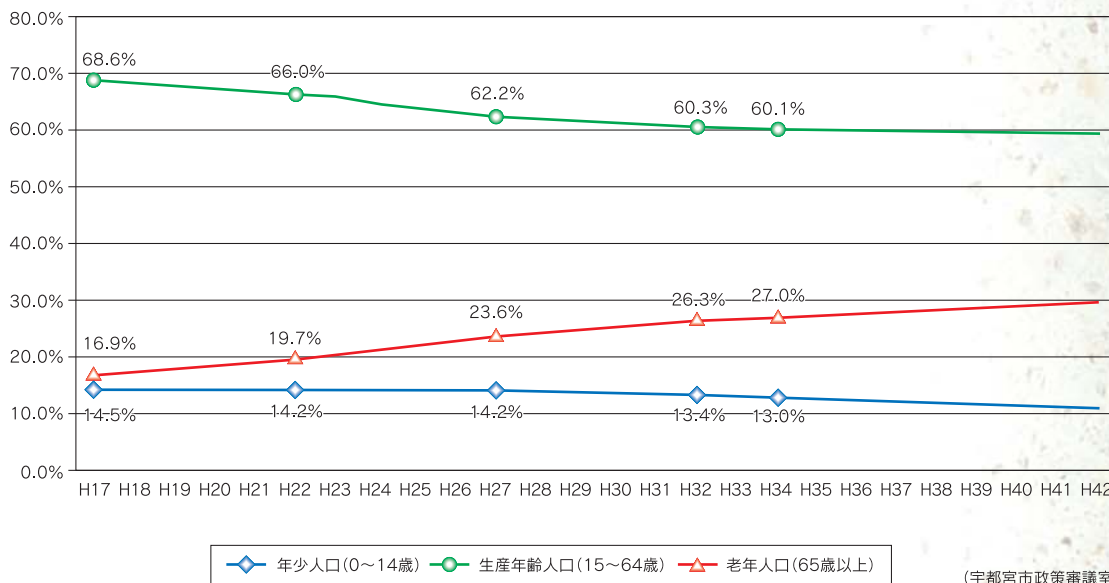
宇都宮市総合政策部の推計によると、総人口は、平成27(2015)年に約51万6千人でピークを迎えたあと、人口減少に転じるものと見込んでいます。



(宇都宮市政策審議室)

今後、宇都宮市では少子・高齢社会の進行も顕著になると考えられます。  
 人口のピークである平成27(2015)年から、平成34(2022)年にかけて、老年人口の割合は23.6%から27.0%へと高まる一方で、年少人口は14.2%から13.0%へ、生産年齢人口は62.2%から60.1%へと、それぞれ割合が低下するものと見込まれています。

年齢3区分別人口割合の見通し



## 世帯数見通し

### 平成34年には約22万6千世帯に

世帯数は、平成22(2010)年の約21万世帯から、平成34(2022)年には約22万6千世帯まで増加すると見込まれています。

1世帯あたり人員数は平成22(2010)年の2.43人から、平成34(2022)年には2.26人にまで減少すると見込まれています。

世帯数の見通し

